

大会運営組織設立に向けて

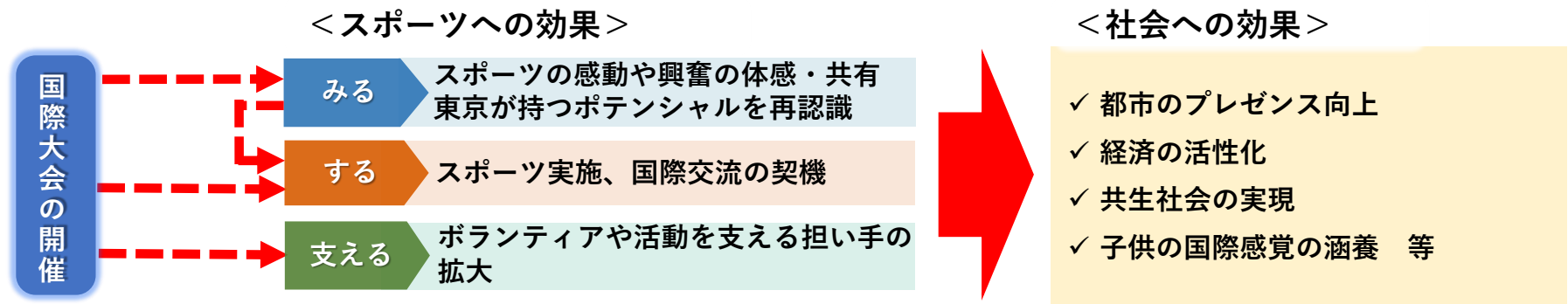
東京で国際スポーツ大会を開催する意義

①東京2020大会の開催を契機に蓄積された有形無形のレガシー

- 東京2020大会は、史上初の延期・無観客での開催という困難を乗り越え、都民・国民をはじめ関係者の皆様の協力を得て、無事に開催
- 東京2020大会を通じ、スポーツ施設の整備やバリアフリーの進展などのハード面が充実するとともに、ボランティアの活躍といったソフト面のレガシーも多く芽生えた

②国際スポーツ大会を東京で開催することのメリット・効果

世界中のトップアスリートが集う国際スポーツ大会を東京で開催することにより、都民のスポーツへの関心を一段と喚起し、スポーツの賑わいを都市の活力へつなげる絶好の機会となる



国際スポーツ大会開催に係る考え方

①国際スポーツ大会への都の考え方

- 東京2020大会によって生まれたレガシーを引き継ぎ、発展させていくため、様々な国際大会の誘致・開催に取り組んでいる。
- 開催に当たっては、適切な大会準備・運営や東京2020大会レガシーの一層の発展のため、培った知見を最大限活用していく。
- 国際大会の組織運営体制においては、公正性が確保され、都民、国民の信頼が得られることが重要である。

②世界陸上の大会運営組織設立に向けて（案）

- 競技団体の適切な組織運営の原則・規範である「スポーツ団体ガバナンスコード」（令和元年スポーツ庁策定）を踏まえる必要があるのではないか。
- 東京2020大会の組織委員会における多くの工夫や経験を踏まえる必要があるのではないか。
（例）共同実施事業管理委員会、直接参画する機会の創出 等
- こうした観点に立って、開催ビジョンの作成、コンプライアンスに十分に配慮した仕組みの構築、主体的な情報発信を中心に一定の議論を行い、大会運営組織の円滑な立ち上げにつなげていく必要があるのではないか。